

矢板市地域公共交通計画 概要版（案）

第1章 計画策定の概要

①計画策定の趣旨

- ・高齢化、核家族化の進展などに伴い、公共交通の必要性がさらに高まると予想されるため、地域公共交通網形成計画の次期計画として、公共交通のさらなる充実を図るために本計画を策定する。

②③期間と範囲

(1)期間
令和6(2024)年
～令和10(2028)年度の5ヵ年

(2)対象範囲
市全域

④上位計画・関連計画の位置づけ

- ・上位計画
やいた創生未来プラン(R3-R7)
- ・関連計画
矢板市都市計画マスタープラン(R5-R24)
矢板市立地適正化計画(R5-R14)

第2章 公共交通の現状と課題

①市の概況

- ・人口・世帯の動向
- ・施設の配置・立地特性
- ・主要施設の状況
- ・自動車保有、事故発生件数 等

②公共交通の現況

- ・公共交通のサービス圏域
- ・鉄道
- ・中央部循環路線(路線バス)
- ・地域共助型生活交通
- ・デマンド交通
- ・その他の交通(スクールバス)

④国の方針

- ・SDGs
- ・脱炭素社会
- ・デジタル活用

⑤地域公共交通網形成計画の評価

評価指標の達成状況	現況値(H30年度)	目標値(R6年度)
・公共交通の利用者数	74.5人/日	→ 80人以上/日
・広告等掲示申込件数	0件	→ 10件以上

③市民の交通にかかわる特性

- ・利用者の割合は高齢者が8割以上を占める。
- ・デマンド交通についてはおおむね満足だが、運行時間拡大の要望が多い。
- ・中央部循環路線については、満足度がやや低く、路線拡大(逆回り)、運行時間拡大、バス停増設の要望が多い。
- ・デマンド交通登録者の約9割は中央部循環路線を利用したことがない。
- ・塩谷病院前、矢板駅のバス停利用者が多い。
- ・リニューアル後の公共交通の利用者の約3割は、リニューアル前の公共交通は利用していなかった。
- ・キャッシュレス決済の導入希望は13%と少ない。

⑥矢板市の公共交通に係る課題

課題1 病院や商業施設への公共交通によるアクセス確保

- 公共交通の利用者の約8割は高齢者、通院と買い物の利用者が多い。○若年層の利便性向上を図り、利用者層の拡大を目指すことが必要。
- 利用者ニーズに応じた公共交通のダイヤや運行ルートといったサービス水準の向上をふまえたアクセス性の確保が必要。

課題2 わかりやすく便利な公共交通体系の構築

- 中央部循環路線をさらに利用してもらうために、わかりやすい公共交通体系を構築することで外出機会を増やし、地域経済への波及効果を狙う。

課題3 厳しい財政状況をふまえた安定的な移動サービスの確保

- ともなりパスにより中央部循環路線が無料で利用できるため、運賃収入が減少。○アフターコロナをふまえた移動手段の確保。
- 公共交通を維持するために利用者の増加による運賃収入の確保。○効率的な公共交通体系に構築により、収支率の改善が必要。

第3章 地域公共交通計画の理念・方針

① 地域公共交通計画の基本理念

- ・便利でわかりやすく、利用しやすい公共交通体系の構築

② 地域公共交通計画の基本方針

基本方針① 市街地への移動利便性の向上

- ・公共交通が市民の生活の足・外出の機会確保として重要な役割を果たすほか、来街者の方も利用しやすいように、駅を中心として買い物や通院などの移動利便性を高めるために、中央部循環路線を効果的に見直すなど、公共交通による市街地の回遊性の向上を目指す。

基本方針② 効果的な利用促進を通じた利用しやすい公共交通の確立

- ・利用者にわかりやすい情報提供や、高齢者や障がい者等に対応したバリアフリー化、JRのダイヤに合わせた運行など、アフターコロナの利用者も踏まえ、公共交通の利便性の向上を図る。
- ・過度に自家用車利用に依存せず、かしこい公共交通に使い方を発信するなど、モビリティマネジメントを活用した公共交通の利用を促進する。

基本方針③ 持続可能な公共交通体系の構築

- ・公共交通は市民の移動手段として重要であり、将来にわたって運行可能となるよう、適切な財政負担で収支率を改善し、運行サービスの見直しを図ることで、移動しやすい公共交通体系の構築を目指す。

③ 補助システムの位置づけ

- ・市内の各運行系統の役割と補助活用の有無

第4章 地域公共交通計画の目標

第3章で設定した基本方針に基づき、地域公共交通の目標及び達成すべき指標を位置づける。数値指標の設定においては、上位関連計画での目標値や進捗管理との整合を図る。

目標①

公共交通の改善

現況値 目標値

指標1-1 中央部循環路線の利用者数 21.7人/日 → 22.4人/日

指標1-2 デマンド交通の利用者数 42.5人/日 → 49.5人/日

目標②

公共交通利用環境の改善

現況値 目標値

指標2-1 バリアフリー車両の導入台数 1台 → 4台

目標③

公共交通の増収策の実施

現況値 目標値

指標3-1 デマンド交通の収入額 7,863円/日→9,159円/日

第5章 地域公共交通計画の取組

施策群1 公共交通の運行改善

- ① 中央部循環路線の運行内容の改善検討
- ② デマンド交通の運行内容等の改善検討

施策群2 自家用有償旅客運送の円滑な実施

- ① 地域共助型生活交通(コリンタ号)の運行支援

施策群3 利用しやすい公共交通の確立

- ① バス車両のバリアフリー化
- ② わかりやすい情報提供
- ③ 公共交通のDX・GXに向けた調査・研究

施策群4 利用者増加策の実施

- ① 公共交通の乗り方教室の開催
- ② 公共交通パンフレットの作成、市民・事業所等への配布
- ③ 公共交通の運行内容の見直し

施策群5 広告収入のための仕組みづくり

- ① 公共交通車内外への広告掲載スペースの設置

第6章 地域公共交通計画の進捗管理

- ①計画の達成状況の評価
PDCAサイクル
- ②計画の推進体制
地域公共交通会議にて進捗管理